

パワポのツボあれこれ

田中佐代子

はじめに

いよいよこの連載も最終回となりました。今回はここまでの連載で説明しきれなかった、いざという時に役立つパワポの機能ををいくつか紹介したいと思います。

その1 パワポ画像貼付のコツ

エクセルで作成したグラフなどを、できるだけクリアな画像としてパワポに貼り付ける際の方法を紹介します。まずは貼り付けたい図をエクセル上でコピーしますが、その後はWindowsとMacintoshで別々に解説します。

■ **Windows** : 「貼り付け」のオプションで「形式を選択して貼り付け」を選択すると、複数の形式が選べます。オススメは「Microsoftグラフィックオブジェクト」「図(拡張メタファイル)」「図(Windowsメタファイル)」形式です。「Microsoftグラフィックオブジェクト」だと、貼り付け後も文字や図を編集可能です(図1)。

■ **Macintosh** : 編集メニューから「形式を選択してペースト」で、複数の形式が選べます。オススメは「Microsoft Office描画オブジェクト」と「PDF」です。「Microsoft Office描画オブジェクト」だと、文字や図を編集可能です(図2)。

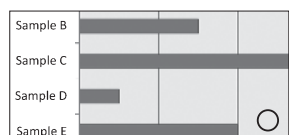


図1-1. Windows「Microsoft Officeグラフィックオブジェクト」を選択。画像がクリアで編集も可能。



図1-2. Windows : 「図(Gif)」を選択しました。画像がぼやけています。

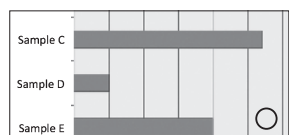


図2-1. Macintosh「Microsoft Office描画オブジェクト」を選択。画像がクリアで編集も可能。



図2-2. Macintosh : 「図」を選択しました。画像がぼやけています。

*PowerPointのMacintosh 2011とWindows 2010の場合の使用を前提としています。貼り付け形式について詳しくは「Office」WEBサイト「サポート」の、「形式を選択して貼り付け」に関するページをご参照ください。

その2 PDFでもプレゼンできる

持参したパソコンが故障してしまったり、会場の規定など、やむをえず別のOSを使用しなくてはならない場合、PDFデータをAdobe Acrobat Readerで開いてプレゼンすることをおすすめします。なぜならWindowsのパワポで作成したスライドデータを、Macintoshで開いてみると、文字がずれたり、文字化けしたりしてしまうことが多々あるからです。逆にMacintoshで作成したデータをWindowsで開くとやはり同様のことが起こります。しかしPDFだと、パソコンのOSが変わっても、文字がずれたり、文字化けしたりするようなことはほとんどありません。

PDFデータでも「表示」メニューで「フルスクリーンモード」にすれば、パワポのスライドショー画面とほぼ同様の見え方になります(図3)。またページを前後に移動する操作も、カーソルキーでパワポ同様にできます。ただしPDFにするとアニメーション機能は使用できなくなってしまうので、その点はあきらめてください。

パワポデータをPDFデータにするには、パワポでデータを開き「名前をつけて保存」(Windows)・「別名で保存」(Macintosh)でファイルの種類やフォーマットとして「PDF」を選択して保存するだけです。

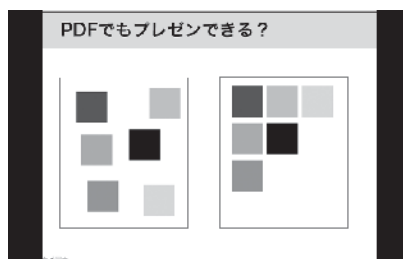


図3-1. パワポのスライドショー画面です。

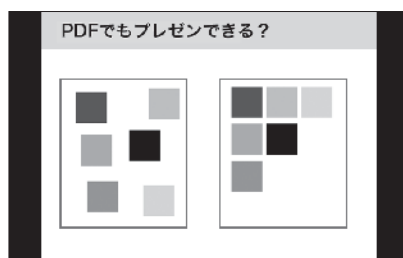


図3-2. PDFのフルスクリーン画面です。パワポのスライドショー画面とほとんど同じです。

その3 パワポで文字を含む図を拡大縮小するときのコツ

パワポでフローチャートなど、文字を含む図形を作成し拡大・縮小すると、図形のサイズのみが拡大・縮小され、文字の大きさ、線の太さ、矢印の先端の大きさは変わらず困った経験をしたことはありませんか？後で文字を拡大・縮小したとしても位置がずれてしまうなど、最終的にバランスの良い整ったフローチャートにしようとする、各パーツを個別に調整しないといけないことになり、とても手間がかかります。

そこでもし図形が完成しているのであれば、図形を画像化してパワポ画面上にペーストすると、文字・線・矢印なども図形と一緒に拡大・縮小され、各パーツを個別に調整する必要がないので、作業時間が短縮できます(図4)。

図形の画像化の方法：まずはパワポ上の図形をコピーします。

■ Windows：「貼り付け」のオプションの「形式を選択して貼り付け」で、「図（拡張メタファイル）」か「図（Windowsメタファイル）」を選択します。

■ Macintosh：図形をコピー後、編集メニューの「形式を選択してペースト」で、「PDF」を選択します。

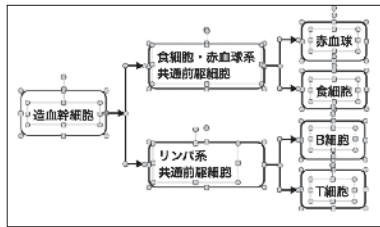


図4-1. 縮小前のフローチャートです。複数の角丸四角形、文字、矢印によって構成されていることがわかるとおもいます。

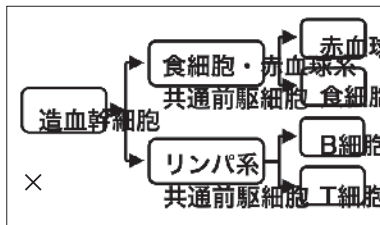


図4-2. フローチャートをグループ化後、50%縮小した図です。このように文字、線の太さ、矢印の先端は図形と一緒に縮小されません。

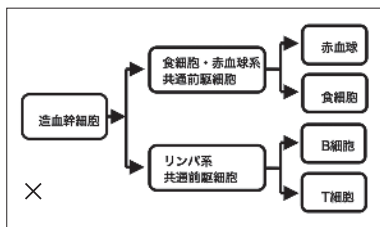


図4-3. 図4-2の文字サイズと行間を50%縮小しましたが、全体に文字の位置が枠より右下にずれてしまっています。線の太さ、矢印の先端も、50%に縮小する必要があります。

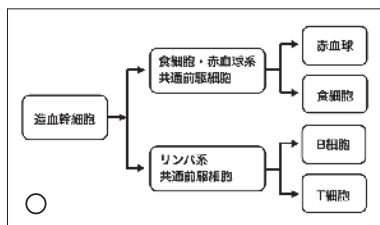


図4-4. 画像化したフローチャートのデータを、パワポに貼り付けてから50%に縮小した図です。文字サイズ、線の太さ、矢印の先端、いずれも図形と一緒に縮小されています。

その4 パワポでキャラクター作成

子どもや一般の人々を対象としたプレゼンの時に、研究内容にちなんだキャラクターをつくってアピールしてみませんか。キャラクター作成のポイントはただひとつ、目（と鼻・口・手・足）を描いて擬人化することです。線（フリーフォーム・曲線）や基本図形で形を描き、目や口の形を変えたりするだけで、さまざまな表情が短時間でつくりだせます。忙しい研究の合間にできそうですよね。以下に研究者が作成した事例を示します(図5)。

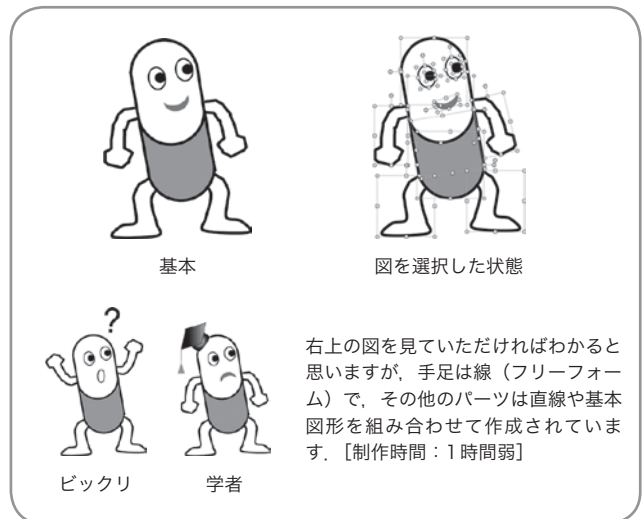


図5-1. 「お菓くん」キャラクター作成：三輪佳宏（筑波大学医学医療系）筑波大学キッズユニバーシティ「元気を守るクスリの科学」2011

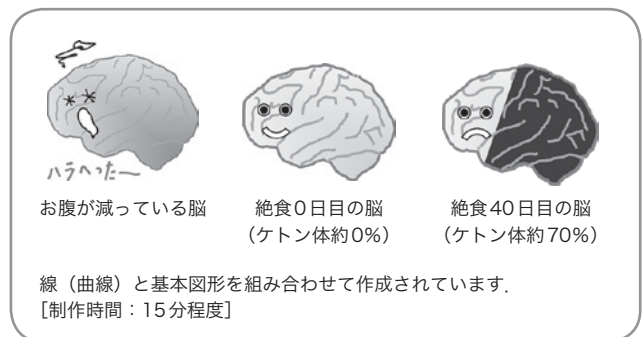


図5-2. キャラクター作成：小林麻己人（筑波大学医学医療系）筑波大学パイオカフェ他「絶食すると脳は動かなくなる？」2012

おわりに

1年間ありがとうございました。生物工学会誌読者の皆様の日頃のプレゼン活動にお役にたてれば幸いです。より詳しい内容をお知りになりたい場合は、自著の「PowerPointによる理系学生・研究者のためのビジュアルデザイン入門」（講談社、2013）をご覧ください。

また、さまざまな場面で助けていただきました、編集委員の橋本義輝氏、淡川孝義氏、元編集委員の杉坂恵子氏には、この場をかりて御礼申し上げます。